

教員になってから、毎年この季節には新しい歌を一つ覚えることができます。

若い皆さんからは「校長先生遅い！」って笑われそうですが、

3/8 アリーナ 第77回卒業式

今年覚えたのは、RADWINMPSの『正解』



卒業式での先輩たちの大合唱は、

この先もこの曲を耳にするたび思い出すでしょう。

式典では、目の前に男子生徒が座っていたのですが

これまで数多く聴いた卒業生の巣立ちの歌の中でも、

別格の絶唱（絶叫かもしれない）でした。

入学した頃は、まだ新型コロナウイルス感染も収束には遠く、

新しい生活様式にそった授業で、音楽の時間の歌唱が許されなかった3年生。

そんな生徒たちの中にも、表現しようというエネルギーが、

これほどまでにみなぎっていたんだと胸の熱くなる時間でした。

3/12 アリーナ 第2学年合唱祭

卒業式で教えてもらってから十日あまり、

何度も公式MVを聞き返し歌詞をたどりました。

「なに一つ見えない 僕らの未来だから

答えがすでにある 問いなんかに 用などはない♪」

青春時代のまっただ中にあるこの歌の主人公の不安や

揺らぎは、皆さん一人一人にも重なるものでしょう。

「並んで歩けど どこかで追いつけていた 君の背中

明日からは もうそこにはない♪」



一緒に悩みながら同じ日々を過ごしたその一人一人にもやがて別れの時は訪れる。

毎年繰り返される春の別れと出発を、テスト開始の風景に重ね合わせた歌詞。

先輩たちの最後の歌声からは、城西中を離れて、

自分だけの「正解」を探す旅を始める先輩たちの覚悟が伝わってきたのでした。

さて…、右は長寿命化工事進行中の中校舎内部です。

私たちは、防音シート越しに聞こえてくる破砕音から

作業の進み具合をイメージするしかないのでありますが、

現在、まっすぐな1階廊下の床板は剥がされ、

梁もむき出しになり、サッシ窓は外され、

理科室だった部屋からは壁も取り去られて、

コンクリートの灰色だけが奥深くまで続いています。

しかし、4月も半ばからは「壊す」から「造る」段階が始まって、

外側を覆うシートも取り替えられると、「音色」の変化とともに、

灰色の廊下も教室も、新たな色彩に次々と着替え始めます。

やがて次の冬には、模様替えした新しい音楽室にも歌声が響くことでしょうか？

歌う喜びを受け継いでいる生徒たちは、巣立ちの歌に何を選ぶのでしょうか？

新装された教室を引き継いだ生徒たちは、中心学年としての決意も新たに、

「力行」の学校生活を送っていることでしょうかね。



歌声を受け継ぎながら、城西中の春の景色も変化していきます。

それぞれの未来へ、「よーい、はじめ♪」



学校長 田村 浩康